

十三年四月五日

第拾貳号

集會條例別冊ノ通被定候條此旨布告候事

集會條例

第一條 政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為メ公眾
ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ
姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹
事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為メ結社
スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管
轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正
シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同様タルヘシ此
届出ヲ為スニ當リ警察署ヨリ尋問スルヲアレハ社

中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人負會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日前三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルトキハ兩後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖氏之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續ヲ為スヘシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出テニ於テ國安ニ妨害アリト認めタルトキハ之ヲ認可セサルヘシ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ證ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルヲアルヘシ

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルトキ

講談論議ノ届書ニ掲ゲサル事項ニ亘ルトキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認めタルトキ及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命ジテ之ニ従ハサルトキハ全會ヲ解散セシムヘシ

第七條 政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得ス

第八條 政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為ノ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委負若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ他ノ社ト連結シ及ヒ通信往復スルヲ得ス

第九條 政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スヲ得ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ賃シタル者共ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

第十一條 第二條ノ規程ニ背キ社則或ハ社負名簿或ハ改則社負ノ出入ヲ定期ニ於テ警察署ニ届出テス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ偽作ノ社則又ハ名簿ヲ届出テ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルトキ社長ハ右

罰金ノ外尚十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處ス

第十二條 第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セサルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ各五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一年以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其警察官ヨリ演說者ノ姓名ヲ尋問スルニ之ニ答ヘス又ハ偽名ヲ答ヘタル者ハ同罪ニ處シ再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處ス

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尚退散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十

一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス
内閣書記官全查

集會條例制定頒布ノ事

十三年三月廿七日

局

元老院へ達

集會條例

右其院議定ニ被付候事 十三年三月廿九日

元老院上申

去ル三月二十九日議定ニ被付候集會條例

勅裁ヲ仰キ候為ノ御上奏有之度右ハ修正ノ理由ヲ記載上奏可致答候ハ氏一々修正ノ理由ヲ具ヘ候テハ頗ル時日ヲ費シ急施ヲ要スルノ際差支不少充理由ノ詳細ハ内閣委員ニ於テ具陳可致ニ付修正案ノミ上奏相成度旨同委員ヨリ請求ニ付其儀ニ任セ即修正案ノミ致上奏候此段御領承有之度候也 十三年四月一日

同院上奏

去ル三月二十九日本院ノ議定ニ付セラレシ所ノ集
會條例同月三十一日會議ニ於テ別冊ノ如ク修正ヲ
加フヘキニ決ス因テ該修正按ヲ淨寫シテ謹テ之ヲ
上奏ス十三年四月一日
修正案省之

同院へ達

集會條例其院議定上奏候處猶詮議ノ次第有之別紙
ノ通修正ヲ加ヘ更ニ議定ニ被付候事十三年四月二日

同院上申

本月三日下午付有之候集會條例修正議案本院議定書
勅裁ヲ仰キ候為ノ御上奏有之度候也十三年四月五日

同院上奏

本月三日更ニ議定ニ付セラレシ所ノ集會條例修正

議案今五日本院ノ會議ニ於テ修正ヲ加フヘキニ決
ス該修正ノ理由ハ急施ヲ要スルノ為ノ別ニ開陳セ
ス因テ別紙ノ如ク修正ノ條項ヲ朱書シテ謹テ之ヲ
上奏ス十三年四月五日
再修正案省之

集會條例第八條末段ニ他ノ社ト連結シ及ヒ通信往復スルヲ得ストノミヲツテ甲社負ニシテ乙社ニ加入シ又ハ支社ヲ置テ得サルノ明文ナレ而テ法制部ハ同第八條末項ノ精神ニ依テ不相成ト説明セリ夫レ甲社負ニシテ乙社負トナリ又ハ支社ヲ置テ得セシムルニ於テハ其實彼社ト此社ト連結スルニ異ナラス第八條ノ彼是連絡スルノ勢力ヲ裁制スルノ効力ヲ失フニ至ラン是即法制部精神ニ依ルノ解明アル所以ナル可レ抑モ法ニ明文ヲ掲ケス而テ精神ニ依テ不相成ト云ハ恐ラクハ未タ盡サ、ル所アル

内務省伺

集會條例第八條末段ニ他ノ社ト連結シ及ヒ通信往復スルヲ得ストノミヲツテ甲社負ニシテ乙社ニ加入シ又ハ支社ヲ置テ得サルノ明文ナレ而テ法制部ハ同第八條末項ノ精神ニ依テ不相成ト説明セリ夫レ甲社負ニシテ乙社負トナリ又ハ支社ヲ置テ得セシムルニ於テハ其實彼社ト此社ト連結スルニ異ナラス第八條ノ彼是連絡スルノ勢力ヲ裁制スルノ効力ヲ失フニ至ラン是即法制部精神ニ依ルノ解明アル所以ナル可レ抑モ法ニ明文ヲ掲ケス而テ精神ニ依テ不相成ト云ハ恐ラクハ未タ盡サ、ル所アル

ニ似タリ然レ氏上司ノ辨明指令等ハ下司ニ於テ遵奉スヘキハ當然ノ儀ニシテ若シ其辨明指令ニ依ラサルヲ得セシムルハ上下構造ノ秩序ヲ紊リ甚不可然且ツ之ニ依準セサルニ於テハ何ソ又辨明指令ヲ要スルヲ須ヒンヤ因テ別紙滋賀縣伺ヘ朱書ノ通可及指令ト存候ヘ共根元法文明載ナク且ツ法制部辨明ニ出ノル事件ニ付為念一應相伺候條至急仰御指揮候也
十三年十一月一日
伺ノ通 十三年十一月廿四日

滋賀縣伺 内務省宛

法律ノ疑條質問ニ對スル法制部ノ回答ハ立案ノ主意ニ原キ辨明スルモノニシテ法律ノ能力ヲ有セサルモノト思量ス果シテ然ラハ別紙神奈川縣ヨリ集

會條例疑義質問ニ對スル法制部回答ノ如キハ條例中其明文ヲ欠クニ依リ之ニ抵觸スル者アルモ法制部回答ノ主意ヲ賅シ集會條例第八條ニ抵觸スル旨ヲ以テ認可セサルヲハ得サル儀ト相心得可然哉詳細御指令被下度此段相伺候也
十三年十月六日
伺ノ趣法制部回答ノ主意ニ據リ處分スル儀ト心得ヘシ

内務卿

滋賀縣ヘ通牒 法制部

集會條例質問ノ儀ニ付神奈川縣ニ左ノ通及回答候條為心得此段及通達候也

神奈川縣質問

一集會條例中他ノ社ト連結スル能ハサルハ勿論ノ儀ニ候ヘ共若シ爰ニ一社ヲ結ビ而テ此支社ヲ設

々即チ何社ノ支社ト稱シ社員ヲ結ビ講談論議ス
ルニ本社員並ニ支社員ト相往來シ講談論議スル
モ差支無之筋ニ可有之哉

但シ支社結社届^候節本社員ノ人名ヲ記載シ届
出タルモノナリ

一甲社員ニシテ乙社員トナリ又丙丁戊等數社ノ社
員トナリ終全國ノ各社一團結社ノ姿トナルモ條
例中禁止ノ明文ナキヲ以テ差支無之儀ト心得可
然哉

回答

右兩項本例第八條末文ノ精神ニ依リ不相成儀ト思
考ス

法制部議案

別紙内務省上申集會條例中法制部辨明ノ儀ヲ案ス
ルニ甲社員ニシテ乙社ニ加入シ又ハ支社ヲ設クル
等ノコトヲ聽ストキハ終ニ全國結社ノ姿ト相成候
間例第八條ノ精神ヲ以テ禁止スハキハ勿論ノ儀ニ
片左案ノ通御指令相成可然哉仰高裁候
十三年十一月十三日